

平成25年度里地里山保全・活用 検討会議の進め方について

環境省自然環境局自然環境計画課

平成25年10月17日

1 - 1 . 検討会議の目的

【位置づけ】

全国の里地里山の自律的な保全・活用に資するため、生物多様性のみならずその他の多様な観点から、里地里山の保全・活用にかかる施策や取組の調査・分析、里地里山の保全・活用の推進方策、多様な主体の参加促進方策等の検討を行うとともに、環境省が策定した「里地里山保全活用行動計画」の推進に向けた助言を行う。

【役割】

里地里山の保全・活用の取組や施策の調査・分析に関する事項。

里地里山の自然資源の新たな利活用方策に関する事項。

多様な主体の参加促進方策に関する事項。

「里地里山保全活用行動計画」の推進に関する事項。

その他、全国の里地里山の自律的な保全・活用を促進するために必要と認められる事項。

【検討委員(五十音順、敬称略)】

あん・まくどなると

上智大学大学院地球環境学研究科教授

石井 実

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授

岩槻 邦男

東京大学名誉教授

進士 五十八

東京農業大学名誉教授 / 自然再生専門家会議委員長

竹田 純一

東京農業大学農山村支援センター事務局長 / 里地ネットワーク事務局長

中越 信和

広島大学大学院国際協力研究科教授

広田 純一

岩手大学農学部教授

宮林 茂幸

東京農業大学地域環境科学部教授

森本 幸裕

京都学園大学バイオ環境学部教授 / 京都大学名誉教授

鷺谷 いづみ

東京大学大学院農学生命科学研究科教授

1 - 2 . 平成25年度の検討内容

検討の背景

これまでの議論の経緯

- ・社会構造が変化し、人口減少が進む中、すべての里地里山を人手をかけて、かつてのように保全していくことは困難であり、保全すべき対象とその将来像を明確にし対策を講じていくことが重要な課題とされた。
- ・そこでまずは、地域の取組(グッド・プラクティス)に着目し、それらを拾い上げて広めることで、ボトムアップによる取組促進を図ることを国の役割とし、地域の個別活動の活発化のための基盤となる仕組みや枠組みについて検討を進めてきた。
- ・地域の活動の活発化、SATOYAMAイニシアティブの提唱など、里地里山保全に向けた機運が高まる中、それらの成果を束ねるものとして「国土レベルでの里地里山保全のビジョン」の必要性が指摘された。
- ・今後も、国や地方の関連施策の動向、生物多様性保全や農山村振興などさまざまな動きとも連携を図りつつ、里地里山の保全活用のあり方について検討を進め、国土管理の観点からみた国内の里地里山保全を効果的に推進していくことが重要。

H24年度検討会議における検討内容

国土レベルでの里地里山保全のビジョン(=グランドデザイン)検討の枠組み/次世代に継承していく里地里山について考慮すべき視点・条件

【H24検討会議で出された主な意見(検討課題)】

*「白地地域」での重要な里地里山選定のための評価の基準・手法の検討

里地里山の地域での文化的価値、農業の多様性、小規模だが重要な場所なども考慮し、既存の保護地域等が指定されていない地域(=「白地地域」)での生物多様性保全上重要な里地里山が選定されるような基準・手法を検討する必要がある。

*重要な里地里山を核とした国土の生物多様性保全にかかる考え方の明確化

コアとなる里地里山の面積確保、生態系ネットワークの観点から国土配置の観点が重要。
生物種の保全には、「流域」や「脊梁山脈」との連続性に着目した保全エリアの設定という視点も重要。

*選定された地域への具体的な保全管理方策の検討

地域の選定にあたっては、具体的な保全管理方策もあわせて検討されることが重要。
国と地域、あるいは関係省庁など、各主体の役割分担・連携を意識し、対応策を検討していく必要がある。

本年度の基本方針と検討内容

基本方針：生物多様性保全の観点から国土のグランドデザインを描けるよう検討を進める

生物多様性保全に取り組むことが国家的・社会的課題とされる中、検討会議においては、国土の生物多様性保全の観点から重要な地域を明らかにし、これを核に「国土レベルでの里地里山保全のグランドデザイン策定」を進めるものとする。なお、本件は、「国土の4割を占める里地里山をどのように次の世代に継承していくのか」という国土管理の議論であることにも留意したうえで、今年度の検討・とりまとめを行うことが重要である。

以上を踏まえ、本年度の検討内容を以下のとおりとする。

国土レベルでの生物多様性保全の観点から次世代に継承していく里地里山の抽出

生物多様性保全上特に重要性の高い里地里山(=「重要里地里山」)の選定基準・手法等の確立

H26年度
「重要里地里山」選定

1 - 3 . 検討内容の具体的イメージ

【ランドデザインの役割】

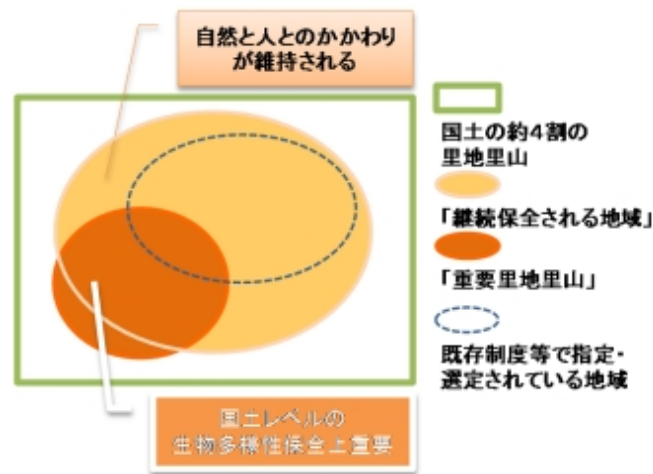
里地里山の保全活用を促進するための国の施策の方向性を示す

【次世代に継承していく里地里山の抽出】(考え方)

- ・里地里山は、その恵みを享受した豊かなくらしの実現、資源の持続可能な利用、国土保全等に資する上で不可欠な地域である。
- ・しかし、近年の社会構造の変化、中山間地域の過疎化・高齢化により里地里山の利用が減っていると同時に、人口減少社会の到来で今後さらに人の手が入らない里地里山が増えると予測されていることから、すべての里地里山を保全対象とすることは困難。
- ・国土の約4割を占める里地里山について、できる限り健全な状態で次世代に引き継ぐことが重要であり、そのために、多面的価値を有する地域と継続的な保全が可能な地域を評価し、抽出する。
- ・抽出にあたっては、自然と人とのかかわりが維持され地域の積極的な取組により継続的な保全活用を見込むことができる「継続保全される地域」と、国土レベルの生物多様性保全上特に重要であり次世代に継承される必要がある「生物多様性保全上重要な里地里山(以下、「重要里地里山」)」を明らかにすることを目指す。
- ・一定の基準でこれらの地域を抽出することで、国土の約4割を占める里地里山のうち、国土レベルでの生物多様性保全の観点から次世代に継承していく里地里山が明確になる。

概念図

「次世代に継承していく里地里山」は、以下の図の着色部分



| | 考え方 | 抽出の視点 | 抽出方法 |
|-----------|--|--|----------|
| 継続保全される地域 | 自然と人とのかかわりが維持されている地域 (地域の積極的な取組により継続的な保全活用が見込まれる) | 「地域での活動の継続性」 | 3次メッシュ |
| 重要里地里山 | 国土レベルの生物多様性保全上、特に重要な地域 | 「里地里山の自然条件(生態系、生物の生息・生育状況)」 「国土配置上の重要性」 | 地区を特定() |

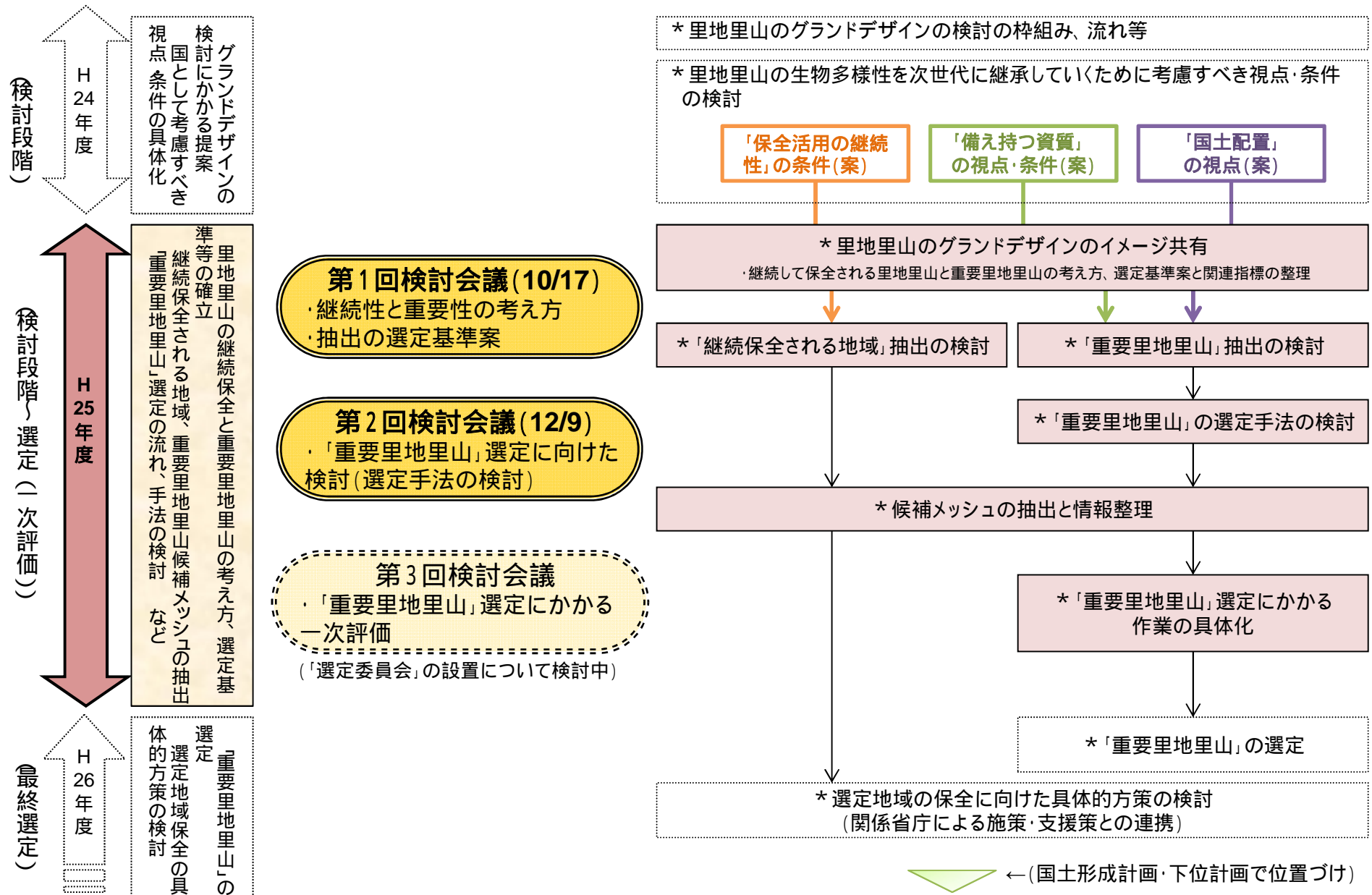
地域の外郭線の設定は行わない

< 国土利用の観点から見た位置づけ >

「自然と人との共生」を実現する場、学ぶ場

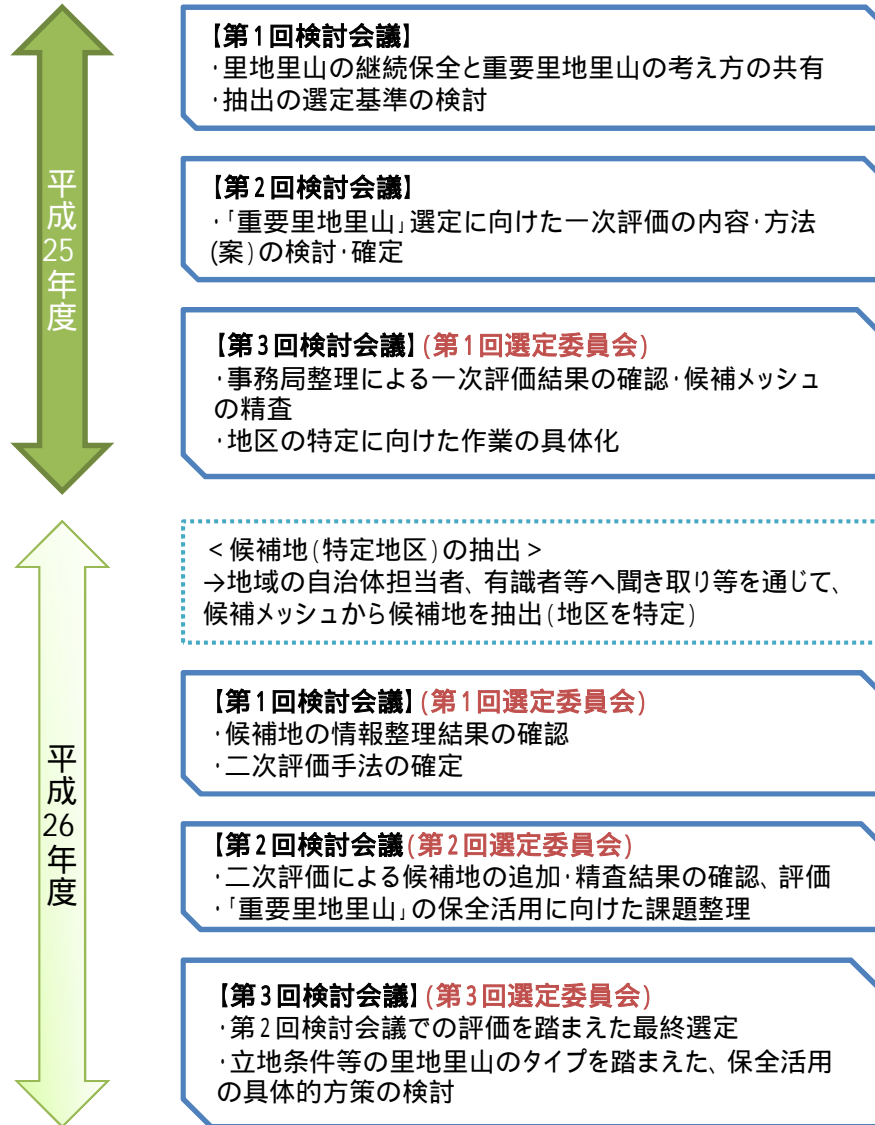
「森・里・川・海」のつながりを確保するための拠点

1 - 4 . 検討スケジュール



1 - 4 参考. 「重要里地里山」選定に向けた今後の具体的スケジュール(選定委員会の設置(案))

「重要里地里山」選定のスケジュール



「選定委員会」を設置する場合の考え方

- ・選定委員会は、検討会議の構成委員に、里地里山を特徴づける生態系や生物種の研究者・有識者(検討会議委員との重複有り)を加えた構成とする。
- ・H25年度検討会議では、選定の枠組みを検討する。
- ・選定委員会は、H25年度の第3回検討会議から移行するものとして、本年度は、第1回選定委員会を開催する。
- ・選定委員会では、これまでの検討会議で検討された選定基準・手法のもと、候補地の確認・評価を行い、「重要里地里山」候補地区の追加・精査、最終選定を行う。
- ・なお、H26年度は、次世代に継承する里地里山について、保全活用の具体的方策の検討も行う。
- ・事務局は、候補となる里地里山について、選定委員や地域協力者の協力のもと、情報提供・収集などを行い、選定の準備・とりまとめの作業を行う。

